

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 徳岡真紀

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田勝彦	経理責任者	増田誠宏
視 察 議 員	徳岡真紀			
期 間	令和4年 10月 28日（金）～令和4年10月28日（金）			
視 察 先	日本女性会議 2023			
視 察 用 務	女性議員			
概要及び所見	<p>日本女性会議とは、“だれもが共に笑顔になれる夢ある未来”の実現を目指し、みんなで考える会議である。</p> <p>日本女性会議は、1975年(昭和50年)の国連総会の理念である「平等・開発・平和」の下に定めた国連婦人の10年を記念し、1984年(昭和59年)に第1回大会が名古屋市で開催された。</p> <p>女性を取り巻く課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることを目的とし、開催都市ごとに大会テーマやスローガンを掲げ、男女共同参画社会の実現を目指して活動している方々が、全国から約2,000人集まる会議。</p> <p>庄原市議、安芸太田町議の女性議員と3名で1日目のみ参加。</p> <p>3日間にわたって様々なゲストを迎え、講演会やワークショップなどが開催される。分科会も「ジェンダー、SDGs、防災、ワークライフバランス、健康・・・」などと多様な視点で開催される中で、私が参加したのは、「子どもの権利—障がいのあるなしに関わらず、ともに学ぶ、ともに育つ」と題し、映画「みんなの学校」の舞台になった大空小学校の元校長である木村康子さんの講演と、その後のパネルディスカッションに参加することが目的であった。大空小学校は、大阪府にある公立の小学校だが、障害があるなしにかかわらず、みんな同じ教室で学ぶということを実践されている</p>			

小学校で、発達障害を持つ子どもたちが通常学級の中で、お友達と先生と一緒に学ぶ、今で言うインクルーシブ教育を早くから実践されている学校で、その様子を「みんなの学校」というドキュメンタリー映画で上映されています。以前鑑賞していたため、どのように、子どもたち、保護者、地域のかた、教員に理解を求めていったのか、子どもたちと大人の関わりについて、現場を経験されたからこそ、インクルーシブ教育の可能性を感じる非常に説得力のあるお話でした。とくに木村元校長のお話の中で、『みんなもう先生の言うことをきいて「はい!」って行っている社会は通用しない。みんなと一緒に学んでいるが、それが当たり前の学校は他にはない。本当はこれが普通。他が普通ではないのだ。』『今の学校は反省させ続ける。命さえつないでいたら、いつでも取り返しはできる!』『それぞれの個性を尊重し合えば差別はなくなる』

という言葉は非常に印象にのこり、今の公教育のあり方を見直す時期が来ていることを強く感じました。

その後は、パネルディスカッションが行われました。自然学校旅をする木代表の得田氏、鳥取子ども学園自立援助ホーム統括寮長の田村氏、ご自身が発達障害を抱えられている公立環境大学の学生である宮下さんを交えて、それぞれの取組や抱えている課題など、それぞれの立場からの報告があった。

これからは保護者、地域住民、教職員、すべての人が学校をつくる当事者になり、大人チームで子どもをはぐくむチーム力が必要!とのことだったが、本市でも、これから本格的にコミュニティスクールが始まる。子どもたちをワンチームではぐくむことができるような三次市にできるよう、さらに学び、提言していきたい。